

事例紹介

北区「わくわく浮間ひろば」

北区では「北区放課後子ども総合プラン」の下、小学校19校(平成27年度実績)で、「わくわく☆ひろば」を実施しています。平日の放課後や土曜日、夏休み等の長期休業中にも開催しています。

「わくわく浮間ひろば」は、北区立浮間小学校を会場に、「放課後ルーム」(「わくわく浮間ひろば」専用室)、校庭、体育館等を使って、自由な遊びや様々なプログラムを実施しています。平成27年度は年間294日実施され、浮間小学校の約7割の児童が参加登録しています。

浮間小学校は、校内に学童クラブ(浮間さくら草クラブ第一・第二)があり、学童クラブの子供たちも、「わくわく浮間ひろば」の子供たちと校庭で遊んだり、プログラムに参加したりする等一緒に楽しく活動する機会が設けられています。

PTA役員経験者を中心とした地域の意欲的なスタッフの方々が、教員や学童クラブの職員と日々コミュニケーションを取りながら、子供たちが安心して思いっきり遊べるように事業運営に取り組んでいます。

日常的な活動例

子供たちは授業が終わったら、同じ学校内にある「わくわく浮間ひろば」にやってきます。受付を済ませ、学習室へ。まずは「学習タイム」です。「遊ぶ前に宿題に取り掛かる」学習習慣を身に付けます。分からないところは、塾講師等の経験がある保護者OB等が担当学習アドバイザーに教えてもらいます。

日頃から学校との連絡調整は密に行い、気掛かりな子供の様子等は教員とも情報共有を図っています。家での学習習慣がなかなか身に付かない子供に対して、「学習タイム」に、学習アドバイザーが特に気を配って対応をしたことで、自主的に宿題をするようになったといったこともあったそ



学習タイム:遊ぶ前に宿題を済ませます。



放課後ルームでの自由遊び



放課後子供教室推進事業

放課後子供教室は、放課後や週末等に小学校等を活用して、安全・安心な子供の活動拠点(居場所)を設ける事業です。地域の人々の協力を得て、子供たちに学習、スポーツ・文化活動、地域住民との交流の機会を提供することにより、子供たちが地域社会の中で、心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進しています。平成26年7月には、文部科学省・厚生労働省「放課後子ども総合プラン」が策定され、学童クラブとも連携した取組が進められています。

東京都では、平成28年度、小学校のおおむね9割の学校を会場に、1,100教室を超える放課後子供教室が実施されています。

また、小学校を会場とする放課後子供教室のほかに、都立特別支援学校を会場とする放課後子供教室もあります。

今回は、北区立浮間小学校を会場として、地域の方々を中心となり、学校や学童クラブとも連携を取りながら実施されている北区「わくわく浮間ひろば」と、都立王子第二特別支援学校を会場として、保護者OBが中心となり、企業や様々な支援団体の協力を得て実施されている放課後子供教室「王ニクラブ」を紹介します。

うです。

宿題が終わったら、「放課後ルーム」や校庭での自由遊びです。浮間小学校の校庭はとても広いので思いっきり体を動かします。自由遊びは、子供たちが自分たちで遊びを作り出し、皆で楽しく遊ぶ工夫をする良い機会であり、活動中の安全管理を担う地域サポーターは子供の自主性を尊重しながら活動を見守ります。

また、クッキング、けん玉、伝承凧作り等様々な体験プログラムのほかに、週1回定期的に行われるダンスクラブや卓球クラブもあります。クラブ活動の先生役も地域や保護者、保護者OBの方々です。ダンスクラブは地域の区民祭りや児童館祭り等でのステージ発表等、日頃の成果を発表する機会もあり、活動にも熱が入っています。



ダンスクラブでは一生懸命練習します。

地域で子供の成長を見守る

「わくわく浮間ひろば」実行委員長の稲船(いなふね)さんは、元PTA会長です。今の事業の前身となる「地域寺子屋事業」からこの活動に携っており、通算15年もの間、浮間小学校の子供たちの成長を見守っています。

稲船さんは、「地域にはいろいろな力を持っている人たちがいます。そうした人たちに声を掛けて協力してくれる仲間を増やしています。この活動は、単に子供の居場所を作っているだけではなく、地域のつながりが深まる大切な場になっています」と話しています。

雪の降ったある日、自宅前で雪かきをしていたら、浮間小学校を卒業した中学生が通り掛かり、「頑張って!」と声を掛けてくれたそうです。稲船さんは、こうした地域で声を掛け合える関係を紡げる「わくわく浮間ひろば」の活動を大切にしていきたいと話していました。



わくわく浮間ひろば実行委員長の稲船さん

事例紹介

都立王子第二特別支援学校 放課後子供教室「王ニクラブ」

王ニクラブは、都立王子第二特別支援学校の保護者OB、保護者や地域の方々によって組織された任意団体です。教員をはじめ、多くの支援団体、地域の方々、学生ボランティア等の協力を得て、平成23年度から活動しています。

月1回土曜日、年間10回開催される「土曜講座」と、月1回平日の放課後、年間10回開催される「中(ちゅう)・王ニクラブ」の二つの活動が実施されています。

「土曜講座」は小学部・中学部の全在校生が対象で、様々な体験プログラムを親子で楽しめる活動です。これまで、写真教室、オリンピック等によるバスケットクリニック等バラエティに富んだプログラムを実施してきました。

「中(ちゅう)・王ニクラブ」は中学部の生徒が対象で、参加者が「音楽」、「造形」、「風船バレー」の三つのプログラムから興味のあるもの一つを選び、年間を通じて継続的に同じ活動に参加するクラブ活動形式です。

毎年、参加者は延べ1,000名ほど、活動への支援者は延べ500名ほどとなり、参加者も支援者も一緒に活動を楽しみ、交流を図る場となっています。

NPO、企業等の協力により実現した 土曜講座「防災プログラム」

王ニクラブでは、これらの活動への協力をNPOや企業等に積極的に働き掛け、プログラム実施への支援を得ています。

9月の「土曜講座」では、「NPO法人コドモ・ワカモノまちing」(以下「マッチング」という。)による遊びながら学べる「防災プログラム」を実施し、プログラム実施の費用やプログラムで試食する非常食は、「中外製菓株式会社」(以下「中外製菓」という。)から提供を受けました。

王ニクラブでは、以前、東京都教育委員会の防災教育推進事業で、マッチングの防災プログラムを実施したことがあり、そのプログラムが大変好評でした。その後、独自で工夫を凝らした防災プログラムを実施していましたが、やはり、マッチングの防災プログラムを再度実施したいとのことで、学校の所在地である北区に工場、研究所を持つ中外製菓の地域貢献活動としての助成を受け、2年ぶりに実現したプログラムです。

当日は、25家族が3班に分かれて、「地震のときは!」、「暗闇体験」、「トイレは大事」の三つのプログラムを順番に体験していきました。地震が来た時の頭を守る姿勢の練習をしたり、停電時の暗闇の中での非常持ち出し品を探す体験、緊急用トイレの作り方を学びました。被災時の心得

等、大事なことを親子で確認しながらの体験です。ボランティアで協力した先生も子供たちの様子を見ながら、「勉強になりました。学校の防災訓練で生かしたい。」と話していました。



地震が来たら、まず頭を隠す!



簡易トイレ作り

このように様々な団体や企業から協力を得ることで、多様なプログラムの実施が可能となり、また協力してくれる団体や企業の方々には、障害のある子供のことや特別支援学校のことを知ってもらおう機会ともなっています。

“子供たちの笑顔が一番に!”をモットーに



王ニクラブの渡辺さん(右)と桜井さん(左)

王ニクラブの立ち上げ時から事務局の中心を担っている事務局長の渡辺さんと会計担当の桜井さんは、王ニクラブに参加する子供たちの笑顔エネルギーにしてより楽しく充実したプログラムを目指して活動しています。

家庭や学校だけではできないプログラムに子供も親も一緒に参加して、運営に協力している様々な人たちと触れ合いながら、「こんなことやったね。」「あんなこともできたね。」と楽しい思い出を作っています。